

日本賢人会議所 令和3年度事業計画

日本賢人会議所は、私たちの国が直面している課題や目指すべき方向について、具体的なテーマを設定し、勉強会等を行うと共に様々な企画を通して広く社会に訴え、必要な政策提言を行うこと等を目標として約6年半にわたり活動して参りました。

これまでの議論および事業実績を踏まえ、ここ数年は次に掲げる3分野を中心として活動を行っています。

- (1) あるべき長寿社会に向けた、会員の経験と知恵を生かした国、自治体等に対する提言活動
- (2) 多彩な会員の知恵と経験を持ち寄り、会員が楽しんで参加できる会員間の交流活動
- (3) 人生の先輩としての会員による次世代との交流活動、社会貢献活動等

しかしながら、令和2年初頭からの新型コロナウイルス感染症の蔓延により、令和2年度に予定されていた活動がほとんど実施出来なかったことを踏まえ、令和3年度も引き続き感染状況を注視しつつ十分な予防対策を講じ、オンライン会議（ZOOM等）などを活用した上で、シニアとして自らの身の丈の範囲で社会に尽くすことを考えながら、次のような活動に取り組みます。

1. 日本賢人会議所の運営に必要な活動

一般社団法人としての活動に必要な総会、理事会の開催に加え、可能な範囲で正副会長・理事長による正副会長会議および事務局会議を開催して、会の円滑な運営を図ります。これらの会議は、オンライン会議の活用など感染対策に努めて開催いたします。

また、設立以降組織されてきた「事業推進企画委員会」「文化芸術委員会」「広報渉外委員会」並びに「コンプライアンス委員会」を改めて整備強化して、事業運営の強化及び組織の充実を図ることとします。

2. 事業及びプロジェクト

- 1) 南太平洋の子供達を東京2020に招くプロジェクト（南の島PJ）

私たちは、次世代を含めた世界平和の実現に向けて、人々の友好と親善を通して、お互いに学び合いながら生きていきたいと思い、会の設立以来このプロジェクトの実現に取り組んで参りました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、1 年延期された東京 2020 は海外からの観客を受け入れない前提での開催となったことから、外務省の次世代交流招聘事業の一環として計画された「太平洋島嶼国との青少年招聘事業」により実現する運びだった青少年の来日も困難となりました。この状況を受けて、今後は東京五輪への招聘に限らない形で南太平洋島嶼国の次世代との交流の方策を幅広く検討し、外務省とも引き続き連携しつつ、来期も視野に可能な交流活動を実現していくこととします。

なお、外務省招聘事業対象の南太平洋島嶼国は、PNG、バヌアツ、フィジー、ツバル、サモア、トンガ、仏領ポリネシア、ニューカレドニア、パラオ、ミクロネシア、マーシャル、ナウル、キリバス、クック、ニウエ、東ティモール、ソロモンの 17 カ国です。

「（３）人生の先輩としての会員による次世代との交流活動、社会貢献活動等」

2) 未病プロジェクト

これまでに当会議所未病タスク（福生吉裕座長）が作成し、日本賢人会議所ホームページに掲載した「提言：人生 100 歳時代に備える“現代未病”の概念とその活用プラン」について、広く意見を求めつつ、その内容を精査します。また、新型コロナウイルス感染症の蔓延やこれに伴う医療崩壊なども考慮しつつ、これら新たな状況を未病の観点からも捉え直し、シニア層のためにも何が必要で何が可能なのかなどを検討し、これまでの内容に加えて参ります。

さらに、2025 年問題も念頭に日本の医療システムの持続性のためにも、他の関係団体と連携しながら「ジェネリック医薬品の普及」について引き続き取り組みを進めます。

この過程で新たなメンバーを募り、さらに広く知見を集め、セミナーや小冊子（要約版）などを通じて会員を含むシニア層を中心に広く情報共有し、喧伝する機会を設けます。併せて、厚生労働省等の関係部局と本提言について意見交換する機会を得ることと致します。

「（１）あるべき長寿社会に向けた、会員の経験と知恵を生かした国、自治体等に対する提言活動」

3) 多子化健全化社会の構築に向けた提言フォローアップ

我が国が世界のトップを走る少子高齢化問題に対して、少子化対策だけではなくより積極的な政策による「多子化」実現のため、勉強会や講演会を 2015 年から開催して参りました。さらに、多子化のためには女性だけではなく、男性を含め、企業や社会全体で取り組む必要があり、そのための具体的な政策提言を取りまとめ、加藤勝信一億

総活躍担当大臣（当時）に提言をお渡しし、それをフォローすべく内閣府の少子化対策担当部局や高野之夫豊島区長などとも議論を重ねて参りました。

依然として世界のトップを走る超少子高齢化状況に歯止めが掛からないばかりか、加速している状況を深く憂慮し、本提言の1) 大胆な財政支援、2) 子宝ファンドの創設、3) 母体保護法の見直しなどについて、本提言作成関係者を中心に可能な範囲でフォローアップして参ります。

「(1) あるべき長寿社会に向けた、会員の経験と知恵を生かした国、自治体等に対する提言活動」

4) 古事記等研究プロジェクト

当会議所では、私たちの今日の思考や暮らしにもつながる日本文化のルーツでもある縄文文化や古事記等について、かねてから、学びを深めまいりました。

今年度は、引き続きこれらの学び広げるとともに、これらの学びの成果を役立てて、現代の暮らしを豊かにする新しい取り組みについて支援することとします。

(2) 多彩な会員の知恵と経験を持ち寄り、会員が楽しんで参加できる会員間の交流活動

5) 新たなテーマ「地球環境問題」

近年、持続可能な開発目標（SDGs）の概念が広く社会に共有されており、これは次世代に豊かな環境や優れた社会システムを残すことを目標とする日本賢人会議所の設立趣旨にも親和する考えです。そこで SDGs の 17 ゴールの中の多くに関連する「地球環境問題」について、その重要性に鑑みて新たに学ぶ取り組みを開始いたします。

まずは、キーパーソンを選び、セミナーなど学びの機会を作り、段階を追って会員有志により取り組みを組織化し、プロジェクトとすることを目指します。

「(1) あるべき長寿社会に向けた、会員の経験と知恵を生かした国、自治体等に対する提言活動」

6) 新たなテーマ「働き方改革」

同じく「働き方改革」について、その重要性に鑑みて新たに学ぶ取り組みを開始いたします。

まずはキーパーソンを選び、セミナーなど学びの機会を作り、段階を追って会員有志により取り組みを組織化し、プロジェクトとすることを目指します。

「(1) あるべき長寿社会に向けた、会員の経験と知恵を生かした国、自治体等に対する提言活動」

* 「SDGs（エスディージーズ）」とは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、2030年を目標年次とした国際社会共通の目標です。SDGsは「17の目標」と「169のターゲット（具

体目標)」で構成されています。目標には「貧困をなくそう」「働きがいも経済成長も」「気候変動に具体的な対策を」「質の高い教育をみんなに」などがあります

3.行事及び会員交流

1) 月曜セミナー（原則毎月第3月曜日開催 今期4回程度を想定）

日本賢人会議所の活動趣旨を踏まえ、会員が関心を寄せるテーマなどについて識者や専門家を招いて、セミナーを開催いたします。講師謝金・資料印刷などのため原則として会費千円（非会員二千円）を徴収します。

「(2) 多彩な会員の知恵と経験を持ち寄り、会員が楽しんで参加できる会員間の交流活動」

2) 新年祝賀会（令和4年1月）

会員同士の賀詞交換と親睦のため新年祝賀会を開催いたします。

「(2) 多彩な会員の知恵と経験を持ち寄り、会員が楽しんで参加できる会員間の交流活動」

3) 親睦ゴルフコンペ（令和3年）

会員同士の親睦のため4回目となるゴルフコンペを開催いたします。

「(2) 多彩な会員の知恵と経験を持ち寄り、会員が楽しんで参加できる会員間の交流活動」

4) 会報の発行やWEB・SNS等を使った交流

会員の交流や活動などの発信のため、会報を年複数回発行します。また、同様の目的でWEB会議システムやフェースブックなどのSNSも活用します。

なお、上記の活動全般に関しては、新型コロナウイルス感染防止の観点から、WEB会議システムを活用して、出来る限り関係者の参加の幅を広げると共に感染リスク等を低減します。また、このための会員各位へのITサポートも実施いたします。

以上